

日台入国制限緩和後のインバウンドに向けた取組

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所（研修生） 有岡 美奈

1. 日台の観光目的での無査証渡航再開

日台双方で新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）に係る入国制限措置が大幅に緩和された。日本への渡航については、10月11日から査証免除措置の適用が再開、併せて個人旅行が解禁となった。台湾への渡航についても、9月29日に査証免除措置が再開され、10月13日には入境後の「居家隔离」が免除、7日間の「自主防疫」のみとなる¹ほか、個人旅行が解禁され、1週間当たりの入境者数制限も12月10日から撤廃となった²。本年6月に台湾の大手旅行会社ライオントラベルが実施した旅行意向調査³では、コロナ収束後に最も行きたい地域の1位に日本が選ばれた。コロナ前、国・地域別に見た本県を訪れる外国人旅行者数は台湾が2位であったことから、2年半ぶりに隔離なし、かつ観光目的での無査証渡航再開によるインバウンド需要の回復が期待される。

2. 国際旅行博への出展

無査証渡航再開後の訪問地として福岡・九州を選んでもらえるよう、本県では今年度台湾で開催された3つの国際旅行博においてPRを実施した。ここではそのうち2つを紹介する。



(写真1) ITF 北部九州ブースの様子（筆者撮影）

(1) 2022 台北国際旅展 (ITF)

ITFは今年で30回目を迎える台湾最大の国際旅行博である。今年は11月4日～7日に開催され、入国制限緩和後の開催とあって、会期中、対前年比71.7%増の19万5366人が来場する賑わいを見せた。

今回、本県は佐賀、長崎、熊本、大分の4県と九州観光機構、九州旅客鉄道株式会社や西鉄グループ（バス部門）と合同で「北部九州」としてのブース出展を実施（写真1）。ブースには九州の地図パネルを設置し、新幹線やJRの路線、空港の場所を示し、来場者が周遊プランをイメージしやすい展示となっていたほか、ライオントラベルと連携し北部九州を周遊する旅行商品の紹介も行った。複

¹ 居家隔离＝外出禁止。自主防疫＝自主健康管理。

² JETRO ビジネス短信「12月10日から入境上限を撤廃へ、12月以降は屋外でマスク不要に（台湾）」
2022年11月

³ <https://www.xinmedia.com/article/204476>

数自治体での出展により、近接する他県の観光地と組み合わせた新たな魅力あるルートが提案でき、エリアとしての魅力を高めることができる。実際に旅行会社の商品を見ると福岡単独でなく九州の複数県を回るツアーが多く、北部九州でアピールすることで、より効果的な展示になったのではと考える。

(2) 2022 台北国際観光博覧会 (TTE)

本年8月19日～22日に開催されたTTEにおいて、本県は日本政府観光局が出展するジャパンプースのステージに出演しPRを実施した。個人旅行解禁前かつ隔離もある時期であったが、コロナ後の旅行先を探しに会場には多くの来場者が訪れた。今回、本県はLIVE中継で各観光地を紹介する試みを実施。スライドで県の主要な観光スポットを紹介した後、これからの時期のおすすめスポットとして、うきは市にある浮羽稲荷神社やフルーツ狩り、吉井白壁の町並み、人気のカフェなどをオンタイムで紹介した。その後は、中継で紹介した内容等を質問、正解者に景品をプレゼントするクイズ大会を実施、盛況のうちに終了した。福岡にいながら会場の来場者と直接コミュニケーションをとることができ、リアルタイムの旬な情報を伝えられることはLIVE中継の強みであり、今後のPRにおいても活用できると感じた。

3. 今後のプロモーションについて

2年半続いたコロナによる渡航制限がようやく緩和されたことから台湾人の日本への旅行意欲は非常に高い。一方、コロナ前と比較するとまだ直行便便数は少なく⁴、また燃油サーチャージ等の高騰により航空券価格が高いこともあり、日本への旅行に対する価格面での気軽さは薄まっている。複数の台湾の旅行会社からは、航空券価格の高さから、1度の旅行で複数のスポットを巡ることができるよう、今後の海外旅行者の滞在日数はコロナ前よりも長期化するだろうという声が聞かれる。そのため、他県と連携してPRを行い、複数自治体を周遊する提案を行うなど1回の旅行の充実度を高める提案は今後も継続していきたい。

来年10月には、福岡、熊本、大分で自転車の国際ロードレース「ツール・ド・九州」、また、大会開催に合わせ、大会の一部コースを取り込んだサイクリング周遊型旅行商品「ディスカバー九州」が展開する予定である。台湾ではサイクリングは人気のアクティビティ⁵であり、日本旅行への良いきっかけとなるだろう。これらのイベントに合わせて、台湾のサイクリング愛好家のみならず幅広い旅行客の誘致に向けて関係機関と連携し、PRを行ってまいりたい。

⁴ 2019年8月時点の1週間あたり定期航空便数は福岡ー台北間が88、福岡ー高雄間が14。一方、2022年11月29日現在では福岡ー台北間が52、福岡ー高雄間が4となっている。

⁵ 中華民国交通部のニュースリリースによると、2021年に開催された「台湾自転車フェスティバル」以来、官民共同でサイクリングツーリズムを推進し、毎年参加者数は延べ12万人に達する。